

周辺環境



女化運動広場は、サッカーコート3面分(成人用・子供用ゴール常設)の広さがある多目的広場。左奥に見える建物が、新設されたトイレ。

外観



広場の遠くからも目立つ、オレンジ色の瓦が印象的な木造平屋建てのトイレ棟。設計を手掛けた生徒たちは瓦を葺く実技も行なった。

ひろびろブース



子ども連れや車いす使用者に配慮して、男女トイレともにひろびろブースを配置。トイレの出入口は、開口が大きくとれ、開閉しやすい2枚引き戸仕様。立ち座りや姿勢保持のため、L型手すりを設置している。

男性トイレ 小便器コーナー



小便器は、床の清掃性に優れた壁掛式を採用。床面には、尿の飛散によるにおいや汚れを軽減するハイドロセラフロアを設置。

入口・サイン



男性と女性トイレの入口を離して、別方向から入るよう設置することで、防犯・プライバシーに配慮。ステンドグラスの入口サインは夜になると照明により照らされる。

女性トイレ全体



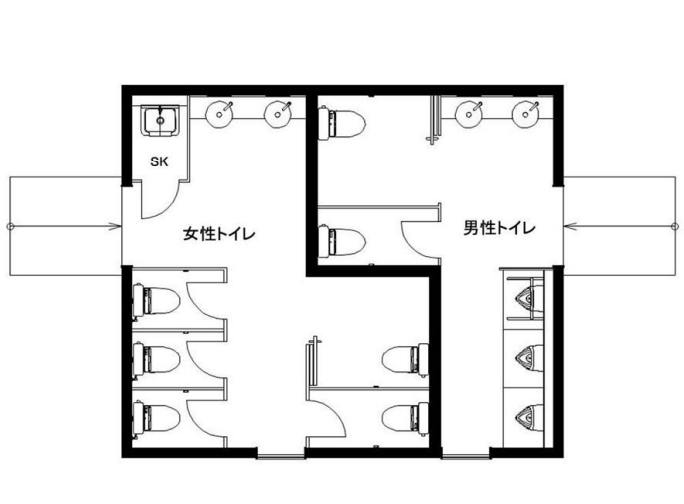
内装には、県産の木材をふんだんに使用している。上部からは自然光が差し込み、明るく、温かみのある空間となっている。

ステンドグラス

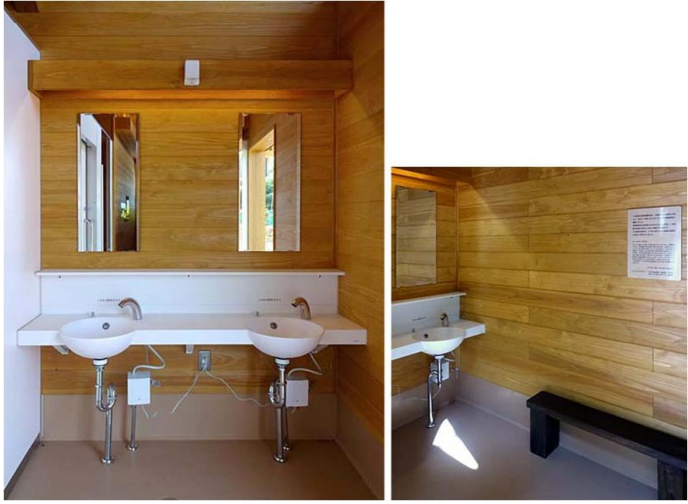


窓にはめ込んだステンドグラスは、猟師に狙われたキツネが女性に化けたという、地名「女化」にちなんだ伝説をもとに生徒たちがデザイン。上部にはすりガラスを使用し、防犯・安全性にも配慮。

図面

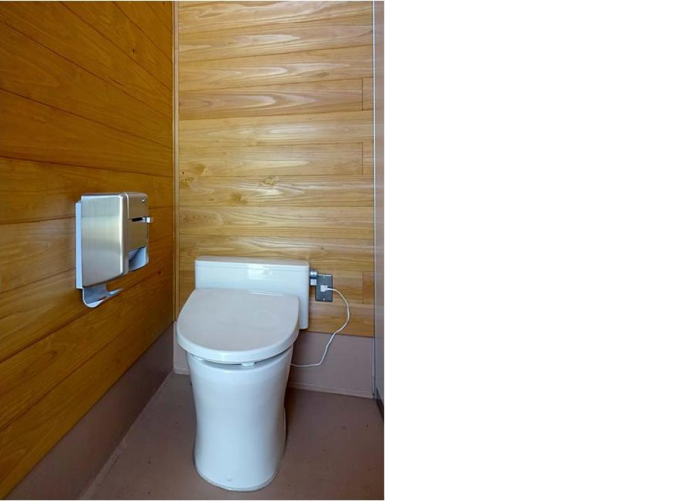


女性トイレ 洗面コーナー



洗面はカウンターとボウルに継ぎ目がなく、清掃性に優れたボウル一体形カウンターを採用し、水栓金具はノンタッチで水の出し止めができる自動水栓を設置。そばには荷物置き台を設けている。

大便器ブース



大便器は、節水性が高く連続洗浄可能なパブリックコンパクト便器フラッシュタンク式を採用し、冬季の使用に備えて、暖房便座を設置。

建築概要

名 称	女化(おなばけ)運動広場トイレ
所 在 地	茨城県牛久市さくら台4-36-1
施 主	牛久市
設 計	牛久市、茨城県立土浦工業高校
施 工	有限会社昭栄建設
竣 工 年 月	2016年3月

水まわりの特長

<改修の経緯>
女化(おなばけ)運動広場は、茨城県牛久市南部に位置するサッカーコート3面分の広さがある多目的広場。地元の高齢者がグラウンドゴルフを楽しんだり、少年サッカーチームの交流試合が開催されるなど、年間およそ2万人が利用する。改修前は、広場には簡易トイレしかなく、スポーツ大会時の際、既存のトイレでは数の不足や、古くて臭うなど、利用者から改善を求められていた。新設した公衆トイレの建物には、県産の木材がふんだんに利用され、茨城県の林業の活性化と再生に寄与している。

<トイレの特長>
牛久市は、「高校生の鋭い感覚を取り入れたい」との思いから、茨城県立土浦工業高校建築科の生徒6名とトイレ改修計画・設計を共同実施。生徒たちは、現地調査や利用者から聞き取りを行い設計に反映するなど、実践的学習の貴重な機会となった。「臭い、汚い、暗い、怖い」というトイレのイメージを払拭し、利用者を第一に考えて設計されたトイレには、男女の入口を離すことでのプライバシーの確保、すりガラスを使用したのぞき見防止が図られ、子ども連れや車いす使用者が利用しやすいように多目的トイレの広さを大きくするなど、高校生のアイデアが随所に盛り込まれている。災害時の利用などを想定し、すべての便器は洋式便器を採用している。